

農地管理による酒米生産と農地集積・集約

～（株）高田農産～

経営体の概要

当 初：昭和40年代後半
基幹作物：水稻
経営面積：1.8ha

現 在：令和元年度
基幹作物：酒米、加工米、二条大麦
経営面積：自作地1.8ha、借地56ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

代々農業を営んできたが、昭和40年代後半に、地域で先駆けてコンバインを導入したことをきっかけに、稲刈り作業を受託するようになり、周辺の農家の高齢化や離農等の要因も合わさり、代かき、田植え作業も受託するようになり周辺農地の受け手として経営面積が増えていった。平成26年、20代の息子2名が後継者として就農したのを機に、家族経営から株式会社へ切り替えた。

事業により計画的な取水、適時取水が可能となり、経営規模の拡大や農地の集積が図られている。住宅地に近い農地もあるため、騒音対策の観点からタイマーと水位計を連動させ、朝7時以降に取水を行うよう設定し、騒音回避と水管理の省力化を実現している（水田42ha）。ほ場の集積・集約に積極的に取り組み、その結果、最大で計7haの水田を1箇所に集約している。

現在は、酒米（山田錦）とビール用の二条大麦を中心に栽培しており、特に酒米は、山口県の有名銘柄の蔵元へ大半を納入している。

営農改善のポイント

①品質管理

過去20年分のほ場別作業日報をパソコンで管理しており、経験とデータに裏打ちされた栽培管理を行っている。また、計測機器（葉緑素計（穂肥時期の適正化）、米の色彩選別機など）も積極的に活用し、品質の向上・確保に努めている。病害虫対策については、令和2年は近隣農地においてウンカの被害が発生したが、稲の出穂後の防除の勧行により、被害がなく収量・品質確保につながっている。息子2名と従業員1名で担当ほ場を決め、各々で単収・品質を競い合い、栽培技術の向上を図っている。



色彩選別機

②省力化

麦の収穫から水稻作へ速やかに移行できるよう、また機械の故障時のバックアップができるよう、トラクター15台、コンバイン5台、田植機1台等農業用機械を揃えている。機械オペレーターには、各々トラックを1台割り当て、ほ場まで農業用機械を運搬して移動時間の短縮を図っている。



トラクター等

事業概要

事 業 種：国営かんがい排水事業「岡山南部地区」
関係市町：岡山県岡山市、倉敷市、総社市
受益面積：3,822ha
事業期間：平成10～平成27年度
事業目的：用水改良
主要工事：頭首工 2箇所（土砂吐・洪水ゲート、護床工改修等）、
用水路 7.0km（用水路改修）

位置図（岡山県）



<問い合わせ先>
中国四国農政局
農村振興部農地整備課
電話：086-224-4511
(内線：2562)

(令和2年度調査時点)